

## 事前意見のまとめ

### 【議題1】

横須賀再興プラン(横須賀市まち・ひと・しごと創生総合戦略)の取組に対する評価

(テーマ1) 13:40~14:00

pp. 23-36

(柱1) 経済・産業の再興

(基本目標1) 市内経済の活性化を図り、雇用を創出する

(施策)

1. 社会基盤の整備 (pp. 24-25)  
(道路や港湾の整備、拠点市街地の再開発)
2. 横須賀経済のポテンシャルを生かす (pp. 26-27)  
(港湾利活用、企業誘致、研究機関連携、創業新産業支援)
3. 中小企業等の再興支援 (pp. 28-29)  
(創業新産業支援、人材育成、雇用環境改善)
4. 横須賀の「おいしい食」を生かす (p. 30)  
(農漁業の振興)
5. 観光立市の実現に向けた環境づくり (pp. 31-36)  
(西海岸の魅力向上、スポーツを核としたまちづくり、観光環境の整備)

(主な取組)

- ・ 国道 357 号の早期着工と南下延伸
- ・ 拠点市街地(横須賀中央・追浜・久里浜地区)の再開発支援
- ・ 横須賀港～北九州間のフェリー就航開設
- ・ 地産地消推進事業
- ・ 長井海の手公園(ソレイユの丘)隣接地の利活用
- ・ 追浜公園横須賀スタジアム改修事業
- ・ 横浜 F・マリノス練習拠点等の整備
- ・ よこすかポートマーケットのリニューアル

カッコ数字は、資料1の参照ページを表しています。

## ご質問

### 石垣委員

○ (P. 28) 下段〈関連事業〉にある「ローカル 10,000 プロジェクト」の事業内容を説明していただきたい。

- ⇒
- ・ 「ローカル 10,000 プロジェクト」は、総務省が推進している取組
  - ・ 地域の人材・資源・資金を活用した新たなビジネスを立ち上げようとする事業者の初期投資費用を国と市で支援
  - ・ 将来に渡って、地域の経済の好循環を作ることが目的
  - ・ 主な事業内容は、「ローカル 10,000 プロジェクト」の募集、市の計画等との整合性などの観点による申請案件の審査、総務省との調整など

### 小林委員、馬場委員

(P. 24、P. 31) 数値目標および KPI の指標（観光客数と観光客消費額）について

観光客	825 万人 (2016 年)	⇒875 万人 (2019 年)	+6%
観光客消費額	588 億円 (2016 年)	⇒444 億円 (2019 年)	▲25%

○2016 年と 2019 年を比較すると観光客数が増えているの観光客消費額が減っているのはなぜか。

○観光客が増加しているのに消費額が減少している。原因を見直すかもしくは説明していただきたい。

- ⇒
- ・ 観光客消費額は、観光客数と平均消費単価を乗して算出しており、平均消費単価が下がったことが原因
  - ・ 消費単価の高い傾向にある県外からの宿泊観光客が、13%程度落ち込んだことが要因の一つと推測される。

例) 三浦半島地域の平均消費単価（鎌倉地区を除く）

	2015 年 (H27 年)	2016 年 (H28 年)	2017 年 (H29 年)	2018 年 (H30 年)	2019 年 (R1 年)
宿泊	23,359 円	28,713 円	14,012 円	18,267 円	15,011 円
日帰り	4,247 円	6,204 円	4,868 円	4,151 円	4,646 円

(県観光消費動向調査より)

## ご意見

### 工藤委員

- (P. 29) ③中小企業等の人手不足、働く人の雇用環境の改善に向けた取り組みの推進
- 横須賀市、ハローワーク、横須賀商工会議所が就労支援事業に関する協定を締結し、市内雇用対策に取り組むことは、非常によいことである。
  - 市内中小企業等のインターネットによる企業情報発信が弱く、就活生に届いていない。「よこすか就職応援ポータルサイト」等により、登録制の企業情報発信等を検討して頂きたい。

### 馬場委員

- (P. 24) 施策「社会基盤の整備」について
- 市民意識も目に見えてわかるようにしていきたい。
- (P. 26) KPI：寄港回数 33 回（2017 年）⇒50 回（2019 年）目標 145 回（2021 年）
- 滞在時間延長と消費活動促進施策を出すべきである。
- (P. 26) 施策「横須賀経済のポテンシャルを生かす」について
- 東京九州フェリーの横須賀～北九州新航路の開設を契機に更に発展していただきたいところである。国道 357 号線の整備が進めば、さらに北関東へつながりやすいなど利点は多くなる。
- (P. 30) 施策「横須賀のおいしい食を生かす」について
- おいしい食についてさらに周知広報の重要性が増している。
  - 3つの浦（近海）から獲れる海産物、イタリア野菜を含めた三浦半島の野菜など売り出せるものをさらに周知していきたい。
- 域内消費拡大を進めていくにあたり、観光客数および滞在時間を長くすべきであるとは明白であるが、「おいしい食」とともに「名産」をつくっていくことも必要である。

## 石垣委員

(P. 29) ②地域経済を支える人材の育成・創出

③中小企業等の人手不足・・・(中略) 取り組みの推進

- 子どものころから横須賀市内の産業、企業に理解や興味をもってもらうため、関係機関の協力を得ながら、小中高生を対象とした企業等訪問会や業務体験会などを様々な業種で実施できないものか。
- 一部業種で実施されていることは承知しているが、商業、工業、農業、水産業、福祉施設他、市内の様々な業種に徐々にでも広がるとよい。

(P. 31) ①西海岸の魅力向上

- 用途地域等の見直しに伴い、東海岸側とは異なる魅力的な施設、例えばアウトレット、(パチンコ以外の) アミューズメント施設、スポーツ施設など、集客に繋がる施設を誘致できるとなるとよい。

## 松尾委員

- 高齢者の増加、地元商店の減少などによる買い物困難者がいる地域が、増えてきている。移動販売を行うスーパーもあるが、駐車場所の確保が一つの課題になっている。一定のルールを定めて、市営住宅や市が管理する場所を提供したり、個人や民間が所有するスペースの提供協力を募ったりすることで、移動販売や宅配事業の支援とそれらの普及を図るとよい。そうすることで、買い物困難者のニーズに応え、小売店や商店街を元気になるのではないか。(柱2も含む)。

- 地域経済の基盤となる中小企業の活性化に向けて、近年では、法人会も地元のために何かできることはないか模索しているようである。法人会との連携もできるとよい。

## 川名委員

(P. 30) ②横須賀産農水産物の魅力発信

- 横須賀野菜、魚のブランド力はとてもあると感じている。

(P. 31) ①西海岸の魅力向上

- 外国人の友人達が立石のダイヤモンド富士を撮影しに何度も出かけていた。走水からもダイヤモンド富士を見ることができる。富士山は日本人にとっても外国人にとっても特別魅力なものなので、富士山の見える場所をルートとして提案するのもよい。

(テーマ2) 14:00～14:20

pp. 37-47

(柱2) 地域で支え合う福祉のまちの再興

～住み慣れた地域で暮らし続けることができるまちの実現～

(基本目標2) 人口減少社会に対応したまちづくりを進める

(施策)

1. 地域における支え合いの強化 (pp. 38-39)  
(支えあいの基盤づくり)
2. 暮らしに不安を抱える方々への支援 (pp. 39-42)  
(障害者支援、認知症の方への支援、相談体制の充実、地域安全の推進)
3. 健康管理意識の向上、行動変容を促すための取り組み (p. 43)  
(健康診査の充実、健康づくりの動機づけ促進)
4. 適切な医療・介護体制等の整備 (p. 43)  
(在宅医療・介護連携の推進、医療・介護人材等の確保・育成、医療機能の充実)
5. 横須賀らしさを生かした地域コミュニティの活性化 (p. 44)  
(谷戸地域の活用、空き家対策、市民協同型まちづくりの推進)
6. 暮らしやすさを向上させるための取り組み (pp. 45-47)  
(移動手段の確保・創出、広域連携、行政の効率化)

(主な取組)

- ・福祉の総合相談窓口「ほっとかん」の設置
- ・障害者ワークステーション事業
- ・障害者グループホーム整備の拡充
- ・地域生活相談事業 (田浦・浦賀・久里浜・西行政センター)
- ・がん対策推進事業
- ・新市立病院 (現うわまち病院) 建設事業
- ・谷戸地域再生事業
- ・スクールコミュニティ整備事業 (汐入小学校・馬堀小学校・鷹取小学校)
- ・コミュニティバスの導入 (浜見台地区)
- ・パートナーシップ宣誓制度自治体間相互利用推進 (鎌倉・逗子・葉山・三浦)
- ・コンビニエンスストア公金収納、キャッシュレス公金収納
- ・証明書のコンビニ交付サービス導入推進事業
- ・認知症サポーターなどによる高齢者捜索へのLINEの活用
- ・妊娠や不妊等のLINE相談

カッコ数字は、資料1の参照ページを表しています。

## ご意見

### 松尾委員

- 福祉・介護サービス分野では、従事者の離職も多く、人材確保に苦慮している施設・事業所も多い。個人的には、外国人人材の受け入れは「人材不足を補う」という消極的なイメージも持ち合わせていると感じる。雇用促進と定住促進施策と一体的に進めていくことで効果が大きく、大切であることから考えるので、市内の福祉施設・事業所等に就職し、一定年数以上市内に居住した方への支援金または貸付金（貸付金の場合は一定年数以上居住と勤務を継続したときは償還免除）のような仕組みがあるとよい。あわせて、市の「ごきんじょぶ」の取り組みも一緒に進めていく必要がある（柱1も含む）。

### 石垣委員

- (P. 41) ②日常におけるさまざまな不安の解消に向けた相談体制の充実

- 「ほっとかん」で行われている食糧支援について、市が困窮する学生、市民のため寄贈を呼び掛けたところ、連日多くの食料品が届いていると聞いている。寄せられた品をより上手く配布する手段の一つとして、関係機関や地元住民の協力を得ながら実施すること、例えば地域生活相談事業を行っている行政センターにて配布するなどを検討されたらどうか。

### 工藤委員

- (P. 46) ③市民活動・地域活動に参画しやすい環境づくり

- 現在、市民活動支援として、「市民協働推進補助金・市民協働モデル事業」等の補助金支援事業があるが、「市民協働モデル事業」については、3年間のモデル事業を完了した後、具体的に横須賀市の施策として取り入れられる事例は少なく、NPO団体等にとっても、資金力から、申請事業が途絶えてしまうことも多い。「市民協働モデル事業」は、趣旨として「地域課題の解決」「市民団体と行政が対等な立場で役割分担を定め実施」「市からの委託事業化」「協議会形式による事業化」等、謳われていることから、継続を前提とした予算化等、検討を頂きたい。
- 「市民協働推進補助金」についても、申請は3回までとなっており、市民活動として、行政で出来ないことを民間主導で実施しているが、申請回数の上限があることから、行政にとってメリットある事業でも、資金面により継続することが困難となっている。制度の見直しを含めた検討を頂きたい。

### **小林委員**

- 高齢者や単身者が増えていく中で、地域コミュニティはこれからもっと重要になっていく。うわまち商店街では定期的にラジオ体操を行っていて、時間になると商店街全体にラジオ体操の音楽が流れ、お店からオーナーさんが出てきて、お隣さんとのご挨拶やラジオ体操をしている。ラジオ体操でなくても、このような取り組みを地域で行えば、安否確認はもちろん、近所の交流、助け合いなどが自然と生まれてくるのではないかと感じる。

### **馬場委員**

#### (P. 40) 障害者ワークステーション事業

- 障害者ワークステーション事業を実施し、更に就業についての見える化を加速化していくと優しい地域になると思われる。

#### (P. 47) 広域連携等などの促進

- 三浦半島全体で、行政課題に取り組んでいる姿勢を示していきたい。

### **川名委員**

#### (P. 38) 施策「地域における支え合いの強化」KPI「地域の通いの場の数」について

- ハイランドでは、市内の空き家を町内会の寄り合い所として活用している。町内会館とは別であり、近所なので出かけやすい。

(テーマ3) 14:20～14:40

pp. 49-60

(柱3) 子育て・教育環境の再興(整備・充実)

(基本目標3) 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

(施策)

1. 出産・子育て環境の充実 (pp. 50-52)  
(包括的な支援、経済的負担軽減、保育士人材支援・確保、遊び場の充実、子育て環境施設の充実)
2. 子育て世代が働きやすい環境づくり (pp. 53-54)  
(保育環境の整備、放課後の居場所づくり、病児・病後児保育施設の充実、中学校完全給食の実現、公立保育園への主食の提供)
3. 学力向上・学習環境の充実 (pp. 55-58)  
(学習意欲向上、学習支援、指導力向上、学校生活支援、健康・体力向上推進、教育環境整備)
4. 横須賀の特性を生かした教育機会の提供 (pp. 59-60)  
(地域全体との連携、プロスポーツとの連携)

(主な取組)

- ・小児医療費助成事業(中学3年生まで拡大、所得制限の撤廃)
- ・幼稚園・保育園費用の無償化への取組
- ・公設の放課後児童クラブ運営事業(逸見小学校)
- ・病児・病後児保育事業
- ・(仮称)中央こども園整備事業
- ・中学校完全給食の実現
- ・公立保育園への主食の提供
- ・小中学校の児童生徒に一人1台のPCタブレット端末の導入
- ・学校内の高速通信ネットワークの整備
- ・海洋関連産業等の創出・集積に向けた調査研究事業(横須賀海洋クラブ)

カッコ数字は、資料1の参照ページを表しています。



## ご意見

### 小林委員

(P. 59) 施策「横須賀の特性を生かした教育機会の提供」について

○横須賀市にはベースもあり、アメリカ人と関われる機会は他都市と比べると多いと思う。市民が英語に触れる機会を更に増やし、「英検 3 級の検定料金の金額助成」というよりも、「中学校 3 年生で英検 3 級が取れます！」くらいのインパクトがある施策を打ち出した方が良いのではないか。

### 松尾委員

○子育て世代の親たちに関心を持たれるような情報という点では、少年野球などの地域の子どもたちを対象としたチームや団体のほか、学習塾からさまざまな「習い事」に関する情報を「すかりぶ」で扱うのはどうか。

### 石垣委員

(P. 51) ②子育て世帯の経済的負担の軽減

○給食無償化を実現できないものか。

子育てには多大な費用がかかるため、産みたくても産めない状況は変わらない。そのような中で、横須賀市では小児医療費や幼稚園・保育園等を無償化し、今年度からは中学校給食を開始するなど負担軽減に繋げていることを評価する。そして、子育て世代の定住を促進するためにも他都市との差別化を図ること、お得感を感じる事が重要である。

ましてや子どもの貧困が深刻化する中、経済的に苦しくなった際に切り詰められるのは食費となってしまうため、給食の意義を食育と、教育の一環と捉え、義務教育費に準じて給食費の負担を無くすことができないものかと思う。

しかしながら、無償化には莫大な予算がかかる。持続可能な計画が、継続的な予算確保が必要であるが、国庫補助の採択や財源の確保は難しく実現へのハードルは高い。

とはいえ、今後は財源他の課題を抽出し、横須賀方式として例えば基金を創設、寄附を募るなど、実現方法を模索・検討し始めてもらいたい。

### 馬場委員

(P. 51) 小児医療費助成事業（中学 3 年生まで拡大、所得制限の撤廃）

○魅力ある施策の拡大で、移住希望者にもアピールすることができる。

(テーマ 4) 14:40～15:00

pp. 61-70

(柱 4) 歴史や文化を生かしたにぎわいの再興  
～「観光立市よこすか」の実現～

(基本目標 4) 関係人口の創出や定住を促す魅力的な都市環境をつくる

(施策)

1. 歴史遺産の活用促進 (pp. 62-64)  
(浦賀奉行所の活用、ルートミュージアムの構築、猿島の活用)
2. スポーツを核としたまちづくり、スポーツによる集客促進 (pp. 65-67)  
(マリンスポーツの振興、運動公園等の充実、アーバンスポーツ・e スポーツの活用、追浜地域と久里浜地域のスポーツを核としたまちづくり)
3. エンターテイメントを生かしたにぎわいづくり (p. 68)  
(アート・サブカルチャーを活用したにぎわいづくり、音楽・ダンスを活用したまちづくり)
4. 海が感じられる場所でのにぎわいづくり (pp. 69-70)  
(西海岸の魅力向上、うみかぜの路の活用、海洋レジャーの拠点づくり)

(主な取組)

- ・浦賀奉行所跡地の利活用
- ・ルートミュージアム整備事業
- ・民間企業と連携した猿島の夜間の活用 (音楽・ライトアップなど)
- ・「横浜 DeNA ベイスターズ」ホームタウンチーム活動推進事業
- ・追浜公園横須賀スタジアム改修事業
- ・「横浜 F・マリノス」練習場の拠点整備、ホームタウンチーム活動推進事業
- ・アニメ・漫画・ゲーム等のサブカルチャーを活用したイベントの開催  
(Pokemon GO SaFari Zone in YOKOSUKA の開催、アニメ「ワンピース」×横須賀のイベント開催など)
- ・「海と緑の 10,000 メートルプロムナード」の活用
- ・JAMSTEC 研究船等の一般公開
- ・ウィンドサーフィン W 杯の継続開催、体験機会の創出

カッコ数字は、資料 1 の参照ページを表しています。

## ご意見

### 馬場委員

(P. 66) ③アーバンスポーツ・eスポーツを活用したまちづくり

○YOKOSUKA e-Sports CUP 市民向け認知、市外向け周知を促進し、ブランディングを推進していくのがよい。今年度はオンラインでの開催を予定しているが、次年度以降、歴史や文化を生かした会場など、魅力的なオフライン開催を充実させていただきたい。

### 松尾委員

○観光にも大きく寄与しているような地方の有名な祭りのように、市内各地域の祭りをPRすることはできないか。江戸時代から続いている祭りも多くある。神事が伴う祭りであっても、地方では行政が観光施策の一つとして積極的にPRしているように思うが、日本の伝統文化の一つとして捉えPRすることはできないか。

### 工藤委員

(P. 63) ②日本遺産など歴史遺産を巡る「ルートミュージアム」の構築、新たな周遊ルートの整備による集客の促進

○コロナ禍以前は、記念艦三笠への集客向上により、三笠公園にも多くの観光客等が訪れていたが、老朽化等により、三笠公園への集客力が弱まっている。三笠公園のリニューアルを含め、検討を願いたい。

○ティボディエ邸の開館により、ヴェルニー公園の魅力も高まっている。リピーターを呼び込むためにも「横須賀造船所めぐり」等の動画シリーズの作成等を検討頂きたい。

○ヴェルニー公園は、近年、バラ公園としても人気が高まっている。全国各地のバラ公園は、遠路からも多くの観光客が集まっていることから、「春のローズウィーク」の拡大・周知等の更なる検討を頂きたい。

(P. 70) ⑥うみかぜの路を活用した取り組み

○海辺つり公園には、現在、多くの釣り客が訪れ、賑わいをみせているが、家族連れで楽しめるような遊具や飲食等の施設がない。イベントでは、屋台等を見かけるが、家族が1日遊べるような遊具等の設備を検討頂きたい。

## 小林委員

- (P. 65) 施策「スポーツを核としたまちづくりスポーツによる集客促進」について
- ウィンドサーフィンワールドカップ大会の開催地のわりに、海沿いの賑わいがあまりないように思う。W杯の開催は中止となったが、今後も各地からウィンドサーフィンの選手がやってくるのであれば、海側から見える街並みも、考えた方が良いのではないか。

## 川名委員

- (P. 64) ③猿島の活用
- アートなどさまざまな話題性の高いイベントを開催は、話題となったので、継続的に続けられると素晴らしい。  
費用対効果も考え、継続のために市民やNPOなどでも実現できるような事業にしてもよい。  
たとえば、七夕（7月7日）には、毎年うみかぜ公園と猿島と両方で海岸でライトアップするなどが考えられる。継続していけば、話題が広がり将来的な集客につながる。
- (P. 69) 施策「横須賀の海が感じられる場所での新たなにぎわいづくり」について
- 「佐島や長井地区」は、都心からもそう遠くはなく、とても魅力的な場所である。  
「すかなごっそ」とも連携してお魚、野菜お買い物ルートとしてもよい。ただ、佐島、長井地区の海岸通りは道幅がとても狭いという課題を考えつつ、プランを練る必要がある。

## (市の取組全体についてのご意見)

### 松尾委員

○行政には公平性が求められるため、一部の企業、事業所、商店、団体などを支援することは難しいことは理解できる。何かを充実させようとするときに公平性に大きくとられると、打ち出される施策やそれによる効果も弱くなるように感じる。近年の福祉分野では、少子高齢化の急速な進展によって、支援を必要とする高齢者が増え続ける一方で、支え手となる現役世代は減り続けていくため、公的な福祉サービスを充実させるのにも限界があり、地域住民自らの支え合いが必要だと言われている。その主体である住民に、自覚とアイデアを求めるならば、「市がそこまで考えてくれるなら、こっちもやってやろうじゃないか」と思われるような、思い切った取組をすれば、大きく前進するきっかけになるのではないかと。

### 川名委員

(P. 6) 「(横須賀は) 他市になり横須賀の個性を磨き」について

○市内の外国人との国際交流も力を入れてできると魅力が増すと思う。

(P. 7) 「西海岸での展開 宿泊能力の向上」について

○ホテルの誘致のみではなく、今ある民宿など宿泊施設の魅力向上を目指すのもよい。近年、ペットと泊まれる宿も人気だが、犬と泊まれる宿はあるが、猫と泊まれる宿はほとんどない。今や、犬より猫の飼育の数が多いと聞いている。たとえば、長野県白樺湖の池之平ホテルでは、鍵がかかる各ケージがおいてある部屋があり、(飼い主とは離れるが) ペットはそこで泊まれ、飼い主はいつでもペットの様子を見に行ける。民宿がこのような取り組みを始めたら、話題になると思う。また、インバウンド客については、提供する食事の内容を心配する宿泊業者もいるので、食事の提供はナシにし、素泊まりが良い。外国人は、日本のコンビニを絶賛している。ハラル対応の方は、ご自分で(プロテインバーなど) 持参したりすると思われる。また、(東海岸側に限っていますが) お風呂も提供せず地元の(久里浜の海辺の湯、など) に行ってもらってもよい。

(P. 7) 「浦賀ドック 暫定開放に向けた整備を実施」について

○道路の歩行者からもドック内の様子を感じられるように、壁に写真を貼るといい。今後、展示施設が出来るなら、ドックで使用していた工具や部品が残っていると聞いているので、是非展示して部品の大きさから、船を建造するダイナミックさを子どもたちに感じてもらいたい。

(P. 8) 「マリンスポーツ」について

○取り組みの影響で、津久井浜海岸などでサップなどを楽しむ人の姿が増えたように感じる。

(P. 8) 「港湾物流の強化に向けた取り組み 北九州間の新規フェリー」について

○コロナ前は、九州・沖縄地方では、クルーズ船によるインバウンドが非常に多かった。(クルーズ船を横須賀に呼び込むというのではなく) クルーズ船で九州を訪れたインバウンド客が、新規フェリーで横須賀に來訪することを促す広報活動の余地があるのではないかと。

(P. 10) 「音楽・スポーツ・エンターテイメント都市」について

○コロナ前に行われた“ともだち jazz”はよかった。特に、中高年の方がバンドを組んでの演奏は、地域のイベントならではの他にない魅力を醸し出していた。今後、野毛の大道芸イベントのように全国に知られるイベントとなって再開されることを望む。

(P. 15) 「東海岸の活性化に向けた取り組みの推進」について

○横浜、鎌倉の人気観光地と合わせて訪問してもらえるような取り組みはどうか。

たとえば、金沢八景の称名寺のつぎに横須賀の追浜地区、またはヴェルニー公園を訪れるルートの広報活動など。

またルートミュージアムを推進するにあたり、視覚的にルートを指示してはどうか。たとえば、国の施策の”広域観光周遊ルートの、昇龍道ルート(近畿地方から金沢までを示した)“のように、訪問するルートを提案すると、訪問客も訪ねる順がわかりやすい。

ルートのテーマのひとつとして、“煉瓦”もあげられる。ヴェルニー公園の(JR横須賀近く)のレンガの門は、下の方が“スクラッチ煉瓦”になり(煉瓦に飾りとしてひっかきをつけた)珍しい。猿島、浦賀ドック、観音崎など、いろいろな場所に明治、大正、昭和初期のレンガを見ることができるのは貴重である。

(P. 17) 「生活困窮世帯の子ともに対する学習支援の拡充」について

○生徒さん達が受験に合格したお話などを伺っている。とても有意義な取り組みだと感じている。

(P. 20) 「先導的官民連携 長井海の手公園(ソレイユの丘)」について

○たまたま5月の連休にソレイユの丘と、千葉館山の観光施設を回ったが、館山はとも空いていた。

一方、ソレイユの丘は、親子連れとキャンプ客でとても混んでいた。  
都心部からの車の便もよく、入園無料ということ、親子で気軽に楽しく遊べるなど魅力的だと思う。

(P. 74) 「高度な救急救命処置体制」について

○地域の高齢化にともない、近所でも救急車を呼んでいるケースが増えた。

今後、救急を要する適切な方への救急車の配送が遅れないよう、救急車の要請の基準などを周知することも必要である。

(P. 75) 「参考 横須賀再興プランとSDGs」について

○市役所の入口などに、市がどのように具体的にSDGsに取り組んでいるか表記した掲示板があるとよい。

たとえば、

「1 貧困をなくそう」では、子ども食堂、フードバンク、市での食料配布

「12 つくる責任 つかう責任」では、3Rの取り組み、交換会（ボランティア団体による）

「14 海の豊かさを守ろう」では、ビーチクリーン（ボランティア）

「15 陸の豊かさを守ろう」では、西地区などで活動していると（伺っている）森林などのボランティアなど

(取組1) 三浦半島魅力深化プロジェクトの取組

(1) プログラミング人材育成事業

### ご意見

#### 松尾委員

○中高生だった参加者が、IT 関連に進学や就職した後も、地域への愛着を育むことを期待するのは難しいように感じる。

2020 年度には全国規模のコンテスト (U-22) の予選を 1 名突破し、2021 年度も入賞を目指すことが掲げられているが、それによって市から授与される賞などはあるのか。横須賀、三浦半島が育てた人材に「地域への愛着を育む」ことを期待するのであれば、例えば、市役所前公園の中の入賞者の名前を刻んだ敷石や手形を敷く、バスのアナウンスで一定期間その功績を流す、よこすか野菜に入賞者の名前の一部をつけるといった、本人と横須賀をつなぐ何か残るものがほしい。

#### 小林委員

○事業内容に主に中高生を中心とあるが、小学生を対象にしたプログラミングの講座も市内で開催されている。抽選での申し込みをする際に、自宅にあるパソコンのスペックを問われる。それが当選の基準になるか分からないが、プログラミング経験者をさらに育てるのではなく、親としてはイベントに参加してプログラミングに興味を持つきっかけになれば良いと思っている。パソコンを自宅で購入する際に、もしプログラミングを学ぶのであれば、このグレードのパソコンが必要であることをあらかじめ知って入れば、パソコンを購入する際の基準にもなると思う。パソコンのスペックについても募集のページにアドバイスとして掲載してもいいかもしれない。

#### 馬場委員

○プログラミング事業に中高生が集まり、体験会についても人気と活気があり関心度の高さが伺えた。集中的に投資を行い、ブランディングを目指すといい。



- (取組1) 三浦半島魅力深化プロジェクトの取組  
(2) 海洋関連産業等の創出・集積に向けた人材育成事業

## ご意見

### 松尾委員

- 子どもたちの海洋に対する関心が高く、将来的に地域の海洋関連産業への就職を希望する声もあるようなので、今後の事業の充実が望まれる。市内には、JAMSTEC だけでなく、海洋学科を設置する海洋科学高等学校や同学校の関連した部活もある。さらに、海産物加工の企業や市場、漁協や漁師さんなど、協力をお願いできるところはたくさんあると思われる。

### 石垣委員

- 「横須賀海洋クラブ」の結成を高く評価する。  
海洋都市横須賀を市内外にアピールすることもできる。  
主催は横須賀市でありながら、実に様々な研究機関・民間企業等が協力・連携されており、多くの時間と労力も費やされたことと察するが、子どもたちが各分野の専門家の指導のもと、楽しみながら学ぶことで海洋関連業務を身近に感じ理解するとともに、これを機にそれらの業務に就きたい等、人材育成に貢献されていることを大いに評価する。

### 馬場委員

- 三浦半島ならではの地形を活かした海洋クラブの結成は、独自性が強く海洋資源および海洋環境に更なる興味を持たす事ができるので、長期間での継続事業として発展していただきたい。地域資源を活かすということでは、財源を変更しつつも継続していただきたい事業である。

(取組1) 三浦半島魅力深化プロジェクトの取組  
(3) よこすか野菜 PR 事業

**ご意見**

**松尾委員**

○「すかなごっそ」は、市内からの来客割合が増加とあるが、個人的なイメージとしては、市外から観光等で来訪された方の利用の方が多い印象がある。局所的な経済効果だけを見るなら売ればそれでもいいが、今後は、学校給食はもちろん、市内の飲食店にもよこすか野菜を中心に扱ってもらえるような働きかけがあるといい。

地方の名産品の PR では、地元民にも日常的に食べられており、その地域の自慢の一つになっているものが多い。よこすか野菜の今後の充実を目指すという点では、まず地元知られて愛されることが大切である。

**馬場委員**

**ご意見**

○よこすか野菜の魅力発信は、市内外に対してさらに強化すべき事業である。域内だけではなく、域外への出荷もステイタスを保った形で展開を期待する。データに基づくマーケティングにて発信方法を変更し推進していきたい。

(取組1) 三浦半島魅力深化プロジェクトの取組  
(4) マリンスポーツによるまちづくり事業

#### ご意見

##### 馬場委員

○関係人口を増加させる手法のひとつであるので、半島全体でのブランディングを保ちつつ多角的な魅力発信を期待する。

(取組1) 三浦半島魅力深化プロジェクトの取組  
(5) アーバンスポーツやeスポーツによる地域ブランディング

(取組1) 三浦半島魅力深化プロジェクトの取組  
(6) 都市魅力PR事業

#### ご意見

##### 松尾委員

○横須賀の音楽といえばジャズ、という割には「ヨコスカ ジャズ ドリームス」や「横須賀トモダチジャズ」といった年1回のイベントを除いては、横須賀中央のメインストリートにベンチの銅像もあるが、日常的に意識できる機会が少ないと感じる。ジャズだけにこだわる必要はないが、中高生から社会人まで合わせれば、市内にバンド人口は多いと思うので、ジャンル別、世代別のコンテストの開催や、優秀なバンドを表彰し、例えば受賞したバンドとそのメンバーについて、市役所前公園の中に名前を刻んだ敷石や手形を敷く、バスのアナウンスで一定期間その功績を流す、よこすか野菜に入賞者の名前の一部をつけるといった、本人と横須賀をつなぐ何か残るものがあるとよい。

##### 馬場委員

○県の地域の魅力発信事業に追随し、半島各市町の事業の方向性を出してPRしその中での特色を出していく方策はどうであろうか。市(半島)外から地域に対して身近に感じるよう関係人口の創出・定住を促す都市環境の整備を進めていきたい。

## (取組2) ルートミュージアム構築による賑わい創出事業

### ご意見

#### 馬場委員

- ルートミュージアム構想は、点在する観光資源を体系立てに大きく貢献しており納得性の高いものである。回遊性を高めるための周知や公共交通機関のルートづくり、来訪目的の複合化を構成する。域内消費拡大につながる施策のひとつである。

#### 川名委員

- 近代歴史の曙を楽しく有意義に学べる施設と思う。
- コロナが落ち着き、コロナ後までの集客が少ない時に、市内小学校で学校外での学習施設として最適だと思う。少しでも、子どもたちに横須賀の歴史を肌で感じてもらえるとうい。
- バルコニーから海が見えてロケーションも良いので、将来バルコニーをカフェとしてもよい。カフェは、近くのコルセールと共同でもよい。横浜山手の洋館（エリスマン邸）のカフェなどは大人気である。バルコニーで、プチコンサート（フランスや開国をテーマにしたものなど）もできる。
- 館内で、横須賀の歴史史跡、観光地の写真カードを無料で配布しており、うれしい。日英対訳つきで、英訳のほうが日本語より詳しく書かれていることが多く力の入れようを感じる。カードは、地域ごとに符号をつけられていたが、符号が付記された横須賀全体の地図もあると参考になる。
- 訪問した時、ちょうど小栗がアメリカから持ち帰ったネジが展示されていた。NHK大河ドラマでちょうど、ネジの映像が流れていた時なので興味深かった。

(取組3) ICTを活用した観光周遊の基盤づくり促進による地域活性化推進事業

**ご意見**

**馬場委員**

- インフラから発展するだけでなく、魅力あるルートの組成・ストーリー性をもつ設計が重要であり、観光消費につながる形で検証し構築していただきたい。また、得られたビッグデータを解析にあたっては、流入経路・告知・域内消費拡大の効果をデータ分析することで有効的な施策をうって進めたい。データの所有・利活用者をどのように設定しているのかも重要なエレメントである。

(取組4) うみかぜ公園スケートボードパークリニューアル事業

**ご意見**

**馬場委員**

- アーバンスポーツの誘致として整備発展をしていただきたい。